

第2回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定 検討委員会 資料

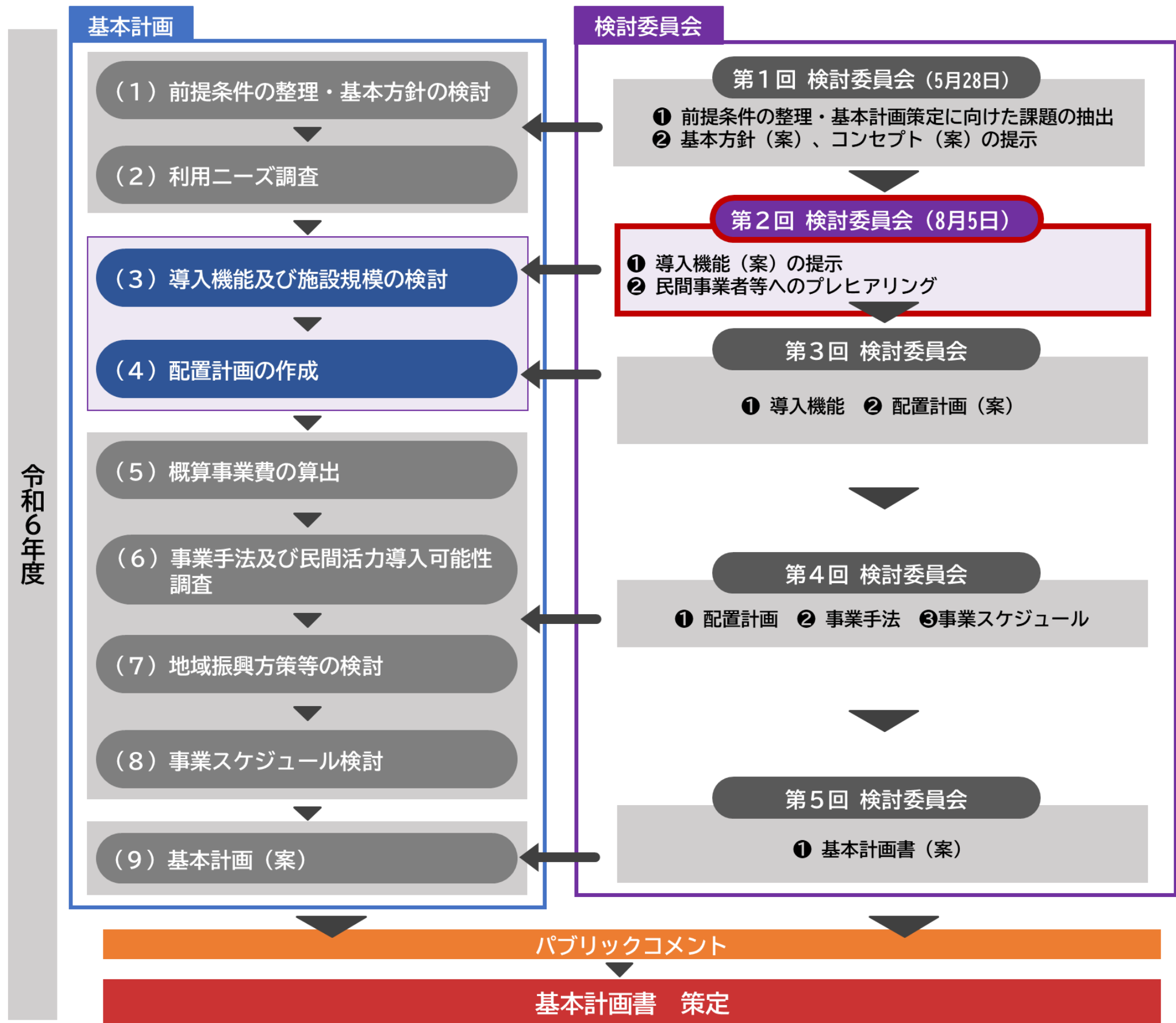
目 次

1. 第1回検討委員会の実施報告 P 1
2. 利用ニーズ調査結果について P 6
3. 導入機能（案）と今後のスケジュール . . P 7

1. 第1回検討委員会の実施報告

1-1. 実施状況

令和6年5月28日（火）第1回検討委員会を実施。第1回検討委員会では、基本方針（案）やコンセプト（案）を確認した。
第1回検討委員会を踏まえ、第2回検討委員会では拠点の「導入機能（案）」の提示、民間事業者等へのプレヒアリング結果を確認する。



第1回検討委員会では、基本方針・コンセプトについて確認した。

■ 基本方針

基本方針1 「三芳の農と食」

武蔵野インビテーション ガーデンツーリズムゲート

来訪者・周辺地域住民・町民

- ・この町の農のくらしと農のもたらす食を知る
- ・この町の農園や農を活かした飲食施設等の体験・利用

そのためには

- ・三芳町の農の精神的・情動的な拠点
- ・三芳町の農に関わる施設に誘うためのアンテナ施設

コンセプトの目指すところ

- 武蔵野のまちへのインビテーション（招待）機能（平地林・農業・食事・歴史・美しい景観）
- 町の農園・農業振興施設・農家レストラン・農家カフェなどのアンテナ機能・アンテナショップ

基本方針2 「町からつながる・広がる」

産地直送・世界のアンテナ ワープステーション三芳

三芳パーキングエリアに隣接した産地直送施設を設置する

- ・自動車道と産地直送を掛け合わせることで消費者に魅力を容易に連想（例えば・・・関越自動車道が結ぶ北陸など）
- ・物流機能を直接的に活かした効率的な販売施設が整備可能

三芳の農の施設と併せて世界農業遺産を活用した情報発信をする

- ・高い集客性とシーズンに偏りのない人気を保持し継続的な賑わいを維持
- ・農とは違った国内外の産品、情報の持つ誘引力により多様な魅力を創出

コンセプトの目指すところ

- 武蔵野のまちに産地直送をかけあわせることで双方が引き立つ・際立つ相乗機能
- 三芳町とともに国内・世界の発信拠点ともしていく情報発信機能

■ 基本コンセプト

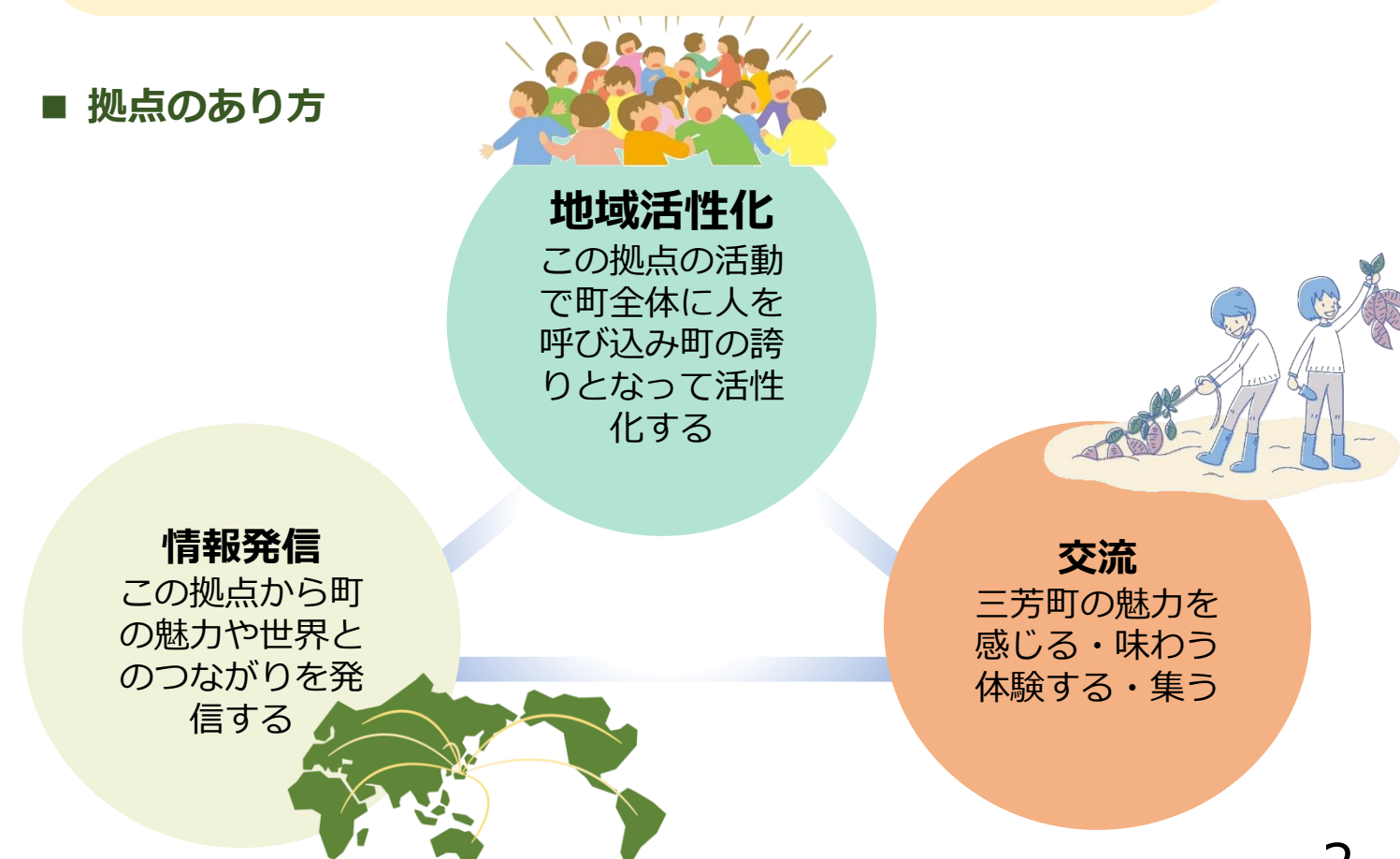
明日へとつなぐ三芳町の魅力再発見

～世界農業遺産から産業・文化・生活の発信拠点～

三芳町政策研究所

「未来創造みよし塾」(仮称)三芳バザール賑わい公園構想プロジェクトチーム提言書（R5.10）

■ 拠点のあり方



1. 第1回検討委員会の実施報告

1-3. 第1回検討委員会 議事要旨

第1回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定検討委員会

開催日時	令和6年5月28日（火） 午前9時30分 ～ 午前11時00分
開催場所	三芳町役場 401会議室
出席者委員	東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 教授 八木信行 飯能信用金庫 三芳支店 支店長 宮田佳律 三芳町商工会 有村誠 三芳町農業経営研究会 会長 田畑和樹 みよし野菜ブランド化推進研究会 浅沼克己 特定非営利活動法人れでいばード 飯塚結花 三芳町長 林伊佐雄（オブザーバー） 東日本高速道路株式会社 サービスエリア・新事業本部 サービスエリア・新事業統括課 岡崎優（オブザーバー） ネクセリア東日本株式会社 事業計画部 中島豪誠（オブザーバー） 合計 9名 （表中敬称略）
議 事	議事―1 （仮称）地域活性化発信交流拠点の概要 議事―2 基本計画策定に向けた検討事項等 議事―3 基本方針・コンセプト（案） 議事―4 利用ニーズ調査

決 定 事 項
□ 検討委員会の内容について公開することを全会一致で承認された。 □ 会の互選により、本会の会長を八木委員、副会長を伊藤委員とすることを全会一致で結議した。 □ 基本方針・コンセプトは承認された。
委員からいただいたご意見
【議事―3】 基本方針・コンセプト（案）について □ ターゲット設定をどこにするかが重要である。 □ 産学連携の観点より、研究機能があってもよい。（例 産学連携展示施設） □ 世界農業遺産と連携し、地場産品を開発することも考えられる。 （例 チャクラシステム（カカオ）/エクアドルアマゾン） 【議事―4】 利用ニーズ調査について ＜ 町民・周辺住民アンケートについて ＞ □ 三芳町のイメージとして、特産品「みよし野菜」などを追加し認知度がどの程度あるのかを図りたい。 □ 三芳町の認知度は、関越自動車道利用者（東京都、神奈川県、埼玉県）に多い印象を受けた。それ以外の千葉県等をターゲットに取り入れるかが重要である。 □ Pasarには、「富の川越いも」や「お茶」もあり、Pasarにないものを見つけることは難しい。三芳町の特産品をどのように活かすかが重要である。 以上



当日の様子

2. 利用ニーズ調査結果について

2-1. 利用ニーズ調査の目的と区分

第1回検討委員会で提示したコンセプトのもと、今後、拠点の利用者となっていく町民・周辺住民あるいは観光客などを対象に潜在するニーズを抽出し拠点に求める機能を把握する。抽出したニーズと基本方針・コンセプトから導入機能（案）を明確にする。

基本方針・コンセプト



利用ニーズ調査



拠点に **導入する機能** を明らかにしてゆく

利用ニーズ調査

Webアンケート調査

想定される
利用者対象



全体的な
方向性を確認

三芳PA利用者 アンケート調査

PA利用者対象



潜在ニーズを
確認

周辺住民 アンケート調査

周辺住民対象



周辺住民の
ニーズを確認

農業者 ヒアリング

農業者対象



・ 農の強化
・ 農と拠点を
結ぶアイディ
ア抽出

子育て世代 アンケート調査

子育て世代
対象



子育てニーズ
を確認

webアンケートの属性の補完するため「周辺住民」「子育て世代」アンケートを実施

2. 利用ニーズ調査結果について

2-2. 利用ニーズ調査の概要

利用ニーズ調査とは・・・

今後、拠点の利用者となっていく町民・周辺町民あるいは観光誘客対象などにアンケートを実施し、地域活性化発信交流拠点に、どのような機能・施設を求めているか、どのようなイベントを求めているかを把握することを目的とする。

① 調査範囲

Webアンケート調査

実施済

対 象 : ① 三芳町、川越市、所沢市、狭山市、入間市、朝霞市、志木市、新座市、富士見市
ふじみ野市 ▶ **日常的な利用が想定される方（三芳町町民・周辺地域住民）**
② 埼玉県（日常利用する方以外）、東京都、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、
在住 かつ 三芳町を知っている方
▶ **観光・長距離移動での利用が想定される方**

実施方法：Webアンケート

回 収 数：① 400票 ② 400票

実施期間：令和6年 6月21日（金） ～ 6月24日（月）

アンケート内容：道の駅等の訪問経験の有無、行ってみてよかったあるいは行ってみたい道の駅等の名称、三芳町のイメージ、求める機能・施設・イベント、果たすべき役割期待すること

三芳PA利用者アンケート調査

実施済

対 象 : 三芳PA利用者
① 三芳PA（上り線）
ア. PA利用者（地方から東京への移動者）イ. Pasar利用者（地域住民、来訪者）
② 三芳PA（下り線）
ア. PA利用者（東京から地方への移動者）

実施場所：① 三芳PA（上り線）[休憩施設付近、Pasar三芳食の駅付近]
② 三芳PA（下り線）[休憩施設付近]

実施方法：インタビュー形式

回 収 数：【休日】① ア. 30票 イ. 30票 ② 30票
【平日】① アおよびイ. 37票※ ② 37票
※上り利用者が少なかったためPasar内で実施

実施期間：曜日によって三芳PA利用者層が異なることを想定し、平日および休日に1回ずつ実施
令和6年 6月29日（土）、令和6年 7月5日（金）

アンケート内容：利用目的、三芳町のイメージ、PA周辺に求める施設・サービス、期待すること

周辺住民アンケート調査

実施済

対 象 : 三芳町周辺住民

実施方法：Webアンケート （三芳HPに掲載）

回 収 数：目標回収数 特になし

実施期間：令和6年 6月24日（月） ～ 7月17日（水）

アンケート内容：Webアンケート調査内容と同様

農業者ヒアリング調査

実施済

対 象 : 三芳町の農業者

実施方法：対面によるヒアリング

実 施 日：令和6年 7月22日（月） 13:30 ～ 14:30
令和6年 7月24日（水） 13:00 ～ 14:00

ヒアリング内容：営農に係る課題や展望、販路に係る課題や展望、6次産業化について、既存施設との差別化について

子育て世代アンケート調査

実施済

対 象 : 三芳町にお住まいの子育て世代

① 未就学児の保護者
ア. 町内の幼稚園や保育所（3～5歳までの子どもの保護者）
イ. 乳幼児健診実施場所（0～2歳までの子どもの保護者）
② 小学生の保護者
ア. 町内小学校（6～12歳までの子どもの保護者）

実施方法：Webアンケート

回 収 数：目標回収数 ① 未就学児の保護者 90票 ② 小学生の保護者 90票

実施期間：令和6年 7月中旬 ～ 7月末

アンケート内容：Webアンケート調査内容と同様

2. 利用ニーズ調査結果について

2-3. 利用ニーズ調査結果 【別紙資料1 利用ニーズ調査結果 参照】

今回、利用ニーズ調査として、Webアンケート調査と三芳PA利用者アンケート調査、周辺住民アンケート調査、農家ヒアリング調査、子育て世代アンケート調査を実施した。その結果、「休憩あるいはリラックスできる機能」、「三芳町ならではのものを食べる飲食機能」、「三芳町ならではのものを購入できる物販機能」、「子どもと楽しめる機能」、「自由に楽しむレクリエーション機能」を求める人が多かった。

Webアンケート調査

- 三芳町のイメージは「三芳PAがある」「自然が豊か」「武蔵野の美しい雑木林」が多い。
- 拠点に求める機能は、「車で移動中、気軽に休憩ができる機能」という道の駅の道路休憩施設としての本来の目的を求める声が高い。その一方で、「三芳町ならではのものを食べる・あるいは購入する」という地域の物産にかける期待値も大きい。
- 「キャンプ場」、「バーベキュー場」、「ドッグラン」などレクリエーション機能をにあたる施設を求める声が高い。
- 拠点が果たす役割として、「地元産業を振興させる役割」、「多くの観光客を呼び込む役割」に期待もたれている。

三芳PA利用者アンケート調査

- 三芳町には「三芳PAがある」という認知度の高さが顕著であった。
- 拠点に求める機能は、「地元の農産物を購入できる物販施設」、「ご当地の食材やお土産等を購入できる売店」、「休憩あるいはリラックスする機能」、「天候を気にせずにしたのしめる屋内遊戯スペース」、「せせらぎ等の水の潤いの創出」、「子どもたちと遊べるキッズスペース」、「自由に遊べる芝生広場」「温浴施設」への希求が高い。
- 観光パンフレット、道路マップなどの印刷物を求める声が高く、最新、旬のイベント案内という意見も多くあった。

周辺住民アンケート調査

- 三芳町のイメージは「三芳PAがある」、「自然が豊か」が多い。
- 拠点に求める機能は、「地元の農産物を購入できる物販施設」、「ご当地の食材やお土産等を購入できる売店」、「子どもが遊べる機能」、「三芳町ならではのものを食べることができる機能」の希求が高い。
- 拠点が果たす役割として、「地元産業を振興させる役割」、「多くの観光客を呼び込む役割」に期待もたれている。

農業者ヒアリング調査

- 拠点では、周辺との差別化として「三芳町産の野菜」にこだわるのが良い。また、販売価格などの工夫が必要。
- 安定した農作物の出荷が求められる。
- 農産物を加工する場所があるとよい。
- 普段は捨ててしまう野菜の一部を商品開発に活用したい。

子育て世代アンケート調査

- 子どもたちが農業・産業・スポーツなど様々な体験ができる。森や木々を守ることも視野に入れた拠点づくり。
- 屋内のキッズスペース、大型複合遊具。子どもが体験できる施設。水辺・水遊び場。
- 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を中心とした農業の振興・農業体験等による食育や未利用野菜を活用したレストランや施設など自然や環境に配慮した施設。
- 近隣に住む人や働く人にとって便利な施設。
- 町の魅力を他県、他市町村に伝えられるような拠点。
- 授乳室やキレイなトイレ、子ども用トイレなどに力を入れて欲しい。

＊アンケート結果から見えてきた拠点のあり方と利用者層＊

【拠点の周辺にお住いの町民や地域住民】

近隣住民や三芳町民・地域住民に対して使いやすく、この拠点を活用して地域の活性化やさまざまな交流機会となることが期待されている。これらの周辺住民は日常利用としての拠点を希求し、また地元産業振興により活気のある地域づくりを求めている。

【拠点に来訪する首都圏利用者・長距離利用者の存在】

東京から30km圏という利便の高さが三芳PAの利用度を高め、フル化したスマートインターチェンジの利用率もかなり高まっている。これらのこの地域に来訪する首都圏の人々や長距離移動後スマートインターチェンジで乗り降りする道路利用者も増えていくものと推察される。

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-2. （仮称）地域活性化発信交流拠点のターゲット設定（案）

アンケート結果（Webアンケート調査・三芳PA利用者アンケート・周辺住民アンケート調査）の総括

- 拠点へのニーズは、調査対象（日常利用、観光・長距離利用、三芳PA利用者）による傾向の差はなかった。（詳細については、別紙資料P23-24「まとめ」参照。）
- 共通として、「三芳町の農産物を味わえる飲食機能」、「三芳町ならではのものを購入できる物販機能」を求める声が高い。
- 日常利用では、拠点に「子どもが遊べる機能」の希求が高かった。一方で、三芳PA利用者においては温浴施設への希求が高く「休憩あるいは疲れを癒す機能」が求められている。

＜ 日常利用のニーズ ＞

- ・自然観察会などの子どもを中心とした「体験」への期待が高い。
- ・地元産業を振興させる役割に期待が高い。
- ・遊具施設など「子どもが遊べる機能」なども期待がされている。

＜ 観光・長距離利用（三芳PA利用者）のニーズ ＞

- ・「キャンプ・バーベキュー場」、「ドッグランやペットと遊べる広場」などレクリエーション機能が期待されている。
- ・地元産業を振興させる役割に期待が高い。

ターゲット設定（案） アンケート結果を踏まえ、重点ターゲットを以下の通り設定する。

- 現状で町に少ない公園空間があれば町民が集まる
- 日常的な買い物をすることも求められる

ターゲット①：地域住民・周辺住民

- ・三芳町一人当たりの都市公園整備面積3.87㎡/人と少ない状況。「人々の憩いやレクリエーション活動の場」を整備することで生きがいとなる場を創出する。
- ・「新鮮さ」、「安さ」、「地元産」、「品揃え」などへのニーズが高いため、リピーターとなれば一定の市場規模となり得る。
- ・地域住民が集まることで地域活性化が期待できる。

地域
住民

観光・長距離
利用

- 三芳SICの利用者数は今後も増加する
- 一般道を利用して三芳町を立ち寄る利用者も潜在的に存在する

ターゲット②：観光・長距離利用

- ・交通利便がよく首都圏に近いこの地の特性を活かして、この拠点に来ることを目的とした利用者を見込む。
- ・ファミリー層への訴求力を高めることで、この拠点においてリピーターの獲得を目指す。
- ・子育て世代を支援し呼び込む魅力のある施設によって「人が人を呼ぶ」魅力的な集客力向上を目指す。

〔参考〕年代別の消費行動における価値観の特徴 年代別の消費行動における価値観の特徴として、一般的に、以下のような特徴があると言われている。

表 年代別の消費行動における価値観の特徴（出典：日置浩之,世代別分析から見た消費行動の展望,知的資産創造2019年10月号,P18 をもとに作成）

概ね20～30代	概ね40代	概ね50代	概ね60代以上
・「自分のライフスタイルにこだわって商品を選ぶ」傾向が強く、個性やライフスタイルを貫く消費スタイルに共感する傾向が強い。 ・「モノ」より「コト」重視、つながりを重視する傾向が強い。	・他人とは緩やかなつながりを求めつつも、「ひとり志向」が強い。 ・共働き世帯が多く、利便性を求める傾向がある。	・ブランド志向が強く、百貨店に回帰している。 ・人とのつき合いに積極的にお金を使いたい傾向がある。	・時間的な余裕が増える中で、人とのつきあいにお金をかけたいという人が多い。 ・健康に関する商品・サービスにチャンスがある。 ・「夫婦お互いのために」をテーマにした商品・サービスが訴求する。

3-1. 求められる導入機能



上記の機能を補完する機能

交通結節 機能

- ・ SIC近接の立地性を活かした機能
- ・ 公共交通と連携する機能
- ・ 観光周遊をするための機能
- ・ 新たなモビリティと連携する機能

防災 機能

- ・ 道路利用者と周辺住民等の発災時の防災機能

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

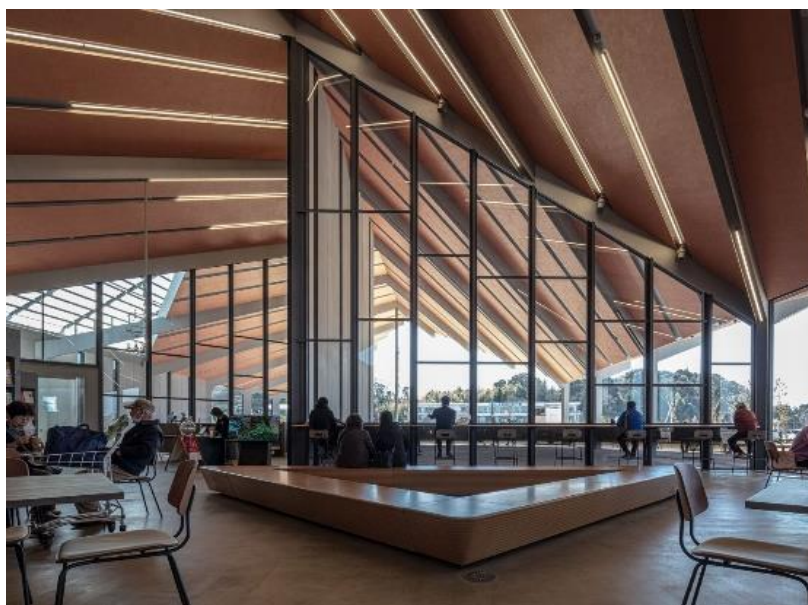
3-1. 求められる導入機能のイメージ

地域振興機能のイメージ 1

- ・ 住民・農業者などの活動拠点
- ・ 世界農業遺産の研修拠点
- ・ 地域住民の多目的な利用に対応する等の会議室・多目的室



道の駅しもつけ（下野市）研修室



道の駅しょうなん（柏市）共有ロビー

- ・ 大学のキャンパス等と連携し、多様な研究室が集う学際的な場
- ・ 道の駅と大学との連携活動



東京大学高輪ゲートウェイキャンパス



玉ねぎを使った学生考案の商品
(プリン、スムージー、バーガー、串焼き)

愛媛大学との連携
道の駅風早の郷風和里（松山市）

- ・ 三芳町を知る・三芳町を広める展望台の設置
- ・ 三芳町のデジタル映像の紹介



すべり台へ移設の「物見塔」
道の駅しもつけ（下野市）



町の魅力を映像で紹介
道の駅こうら（甲良町）

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

地域振興機能のイメージ 2

ビジターセンター・ミュージアムなどの機能を持つ
「みよし野インベーションセンター」

- 三芳町の世界農業遺産の紹介
- みよし野ガーデンツーリズムの紹介



ビジターセンター
ミュージアム



落ち葉堆肥農法

菜の花畑
そば畑

- 日本・世界農業遺産登録地の紹介



世界農業遺産（中国）
世界農業遺産（スペイン）
世界農業遺産（佐渡）

- 三芳町の農産物紹介・三芳町の食材紹介



さつまいも
かぶ
蕎麦
焼酎

- 武蔵野の雑木林や里山の仕組み・生態系の紹介
雑木林、樹木、生き物（カブトムシ、クワガタ、ホタル）



- 三芳町の歴史・文化財の紹介



3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

子育て支援機能のイメージ

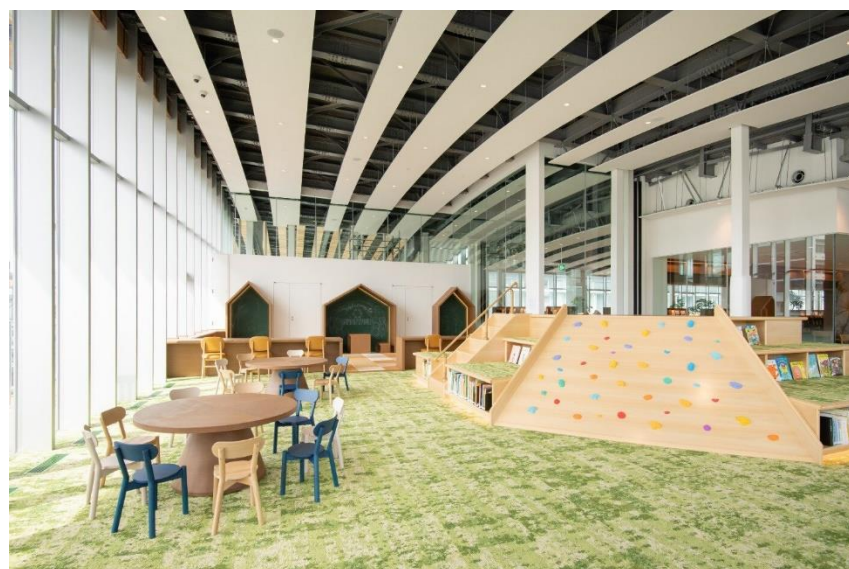
子育てを支援し、子どもと子育て世代を呼び込むすべての人にやさしい訪れたいくなる拠点の形成

全国で成功しているまちづくりはいずれも子育て世代を呼び込む工夫をしている。この拠点においても

- ・子どもが滞在する施設、子どもたちが生き活きと活動できる施設
- ・子育てを支援する機能
- ・子育てを含めたすべての人にやさしい機能が重要である。

そこで、町において、当該敷地を有効活用し、キッズスペースや大型複合遊具等を設置すれば、拠点全体の利用度が高まり、子育て世代がその施設を利用できることになるとともに、その施設の魅力に対しての直接的な集客も見込まれることになる。

また、子どもたちの情操教育の場となる遊び場を設け、冒険広場体験（プレーパーク）などを行うことも子どもを呼び込む効果を発揮する。



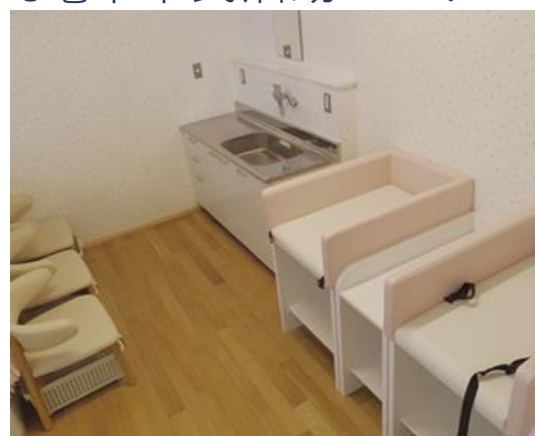
キッズスペース（丸亀市市民活動センター）



大型複合遊具（小野市 小野のひまわりの丘公園）



プレーパーク（小平市）



清潔な授乳室・おむつ交換台
道の駅ふたつ（能代市）



赤ちゃん用液体ミルク販売機
（東京都 都営大江戸線）

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

情報発信機能のイメージ

先端技術のデジタル情報の提供 コレクションできるアナログ情報の提供

デジタルとアナログの双方で効果的な情報発信を実施。拠点だけではなく地域全体の情報を提供し、デジタル社会の実現にも貢献するさまざまな仕組みを用意する。

●町の個性や魅力を伝えるコーナー

●町や周辺地域の観光情報コーナー

●町の暮らしの情報発信コーナー

●交通情報コーナー

●地域住民のニーズに対応するコーナー



デジタル観光情報案内
道の駅かさま（笠間市）



デジタルサイネージ交通情報等
道と川の駅花ロードえにわ（恵庭市）



情報コーナーラック
道の駅雨晴（あまはらし）（高岡市）



道の駅ギフトカタログ
道の駅ましこ（益子町）

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

農業・里山体験機能のイメージ

飲食機能のイメージ

農業や地域産業を体験する機能

地元農産物を使用したメニューを提供する機能

様々なニーズに対応した飲食を提供する機能

アンケートにおいても、三芳町が自然が豊かで雑木林が美しいことがかなり広く知られていることが判明した。さらにはそれらの農業や地域産業の体験する機能や地元農産物を求める意向が数多くあった。

三芳町の町域の5割弱は、畑や山林などの自然的な土地利用であり、風景の基調となっている。

拠点には、その三芳町に誘う機能を持たせることで、三芳町への交流人口の拡大や町の魅力を拠点来訪者に伝えること、さらには、世界農業遺産の登録地である町の果たすべき、現代社会において「農・樹林」の大切さを周知していく役割を持たせる。特に雑木林は江戸時代の開拓から続く農業の営みに欠かせないものであり、落ち葉堆肥農法の仕組みを体験するイベントなどを用意する。



芋ほり体験農園（三芳町）



枝豆収穫体験 道の駅しょうなん（柏市）



蕎麦打ち体験（埼玉県内）



雑木林（三芳町）



苗木植樹体験（埼玉県内）



野菜ビュッフェ（横浜市）



3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

物販・アンテナショップ機能のイメージ

三芳町の地元食材を紹介し販売する施設

三芳町の地元飲食店・販売施設を紹介する施設

世界農業遺産のアンテナショップともなる

三芳町の食品、食材、特産品などを販売および販売促進、ピーアールをまとめて行う施設。物販施設は、町民の拠点の日常的利用と来訪者の購買意欲をそそる施設となる。

アンテナショップは、ピーアール活動が重要な要素であり、立地に優れた拠点の特性を活かして、この場所から、三芳町に「訪れたくなる」機運を高める役割を担う。例えば、産品販売、農家レストラン、など。加えて世界農業遺産を紹介するアンテナショップも配置。



物販施設 道の駅かさま（笠間市）



農家レストラン（藤沢市）



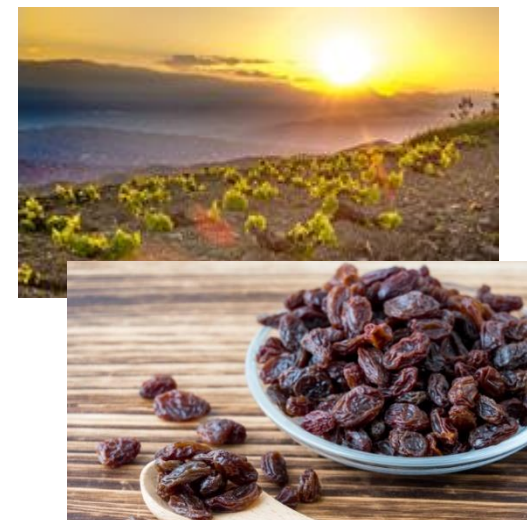
農家レストラン
道の駅野沢温泉（野沢温泉村）



さつまいも料理



狭山茶



アクサルキのレーズン
（スペイン）



チエロのばれいしょ
（チリ）

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

休憩機能のイメージ

レクリエーション機能のイメージ

三芳町の緑の風景にふれながらのんびり休憩・滞在できる施設

道路利用者などが休憩できる機能

子どもたちが自然にふれ、また楽しむことのできる施設

アンケート結果などでは、温浴施設を求める声が非常に高かった。三芳町の特徴である雑木林の風景に溶け込みながら、サウナで心身をリフレッシュすることや、道路利用で疲れた身体を整えるシャワーなどのニーズの高さに呼応した施設を設ける。

さらに多目的なステージや半屋外空間でさまざまなレクリエーション・イベントなどを体験することができる。



サウナ（バレル・樽型）
道の駅四季の郷公園に整備中（和歌山市）



コインシャワー
道の駅西条のん太の酒蔵（広島市）



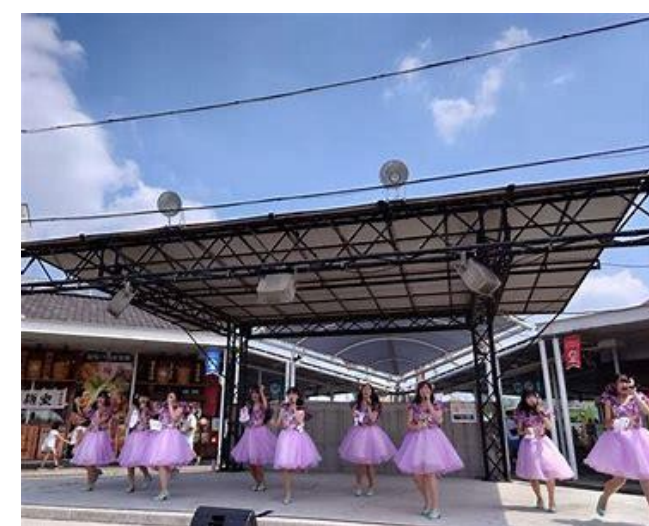
せせらぎ水路
さわやか広場（市貝町）



広い芝生広場
安曇野ちひろ美術館庭園（松川村）



多目的に利用できる半屋外空間
道の駅果樹公園あしがくぼ（横瀬町）



多目的ステージ
道の駅ららん藤岡（藤岡市）

3. 導入機能（案）と今後のスケジュール

3-1. 求められる導入機能のイメージ

交通結節機能のイメージ

防災機能のイメージ

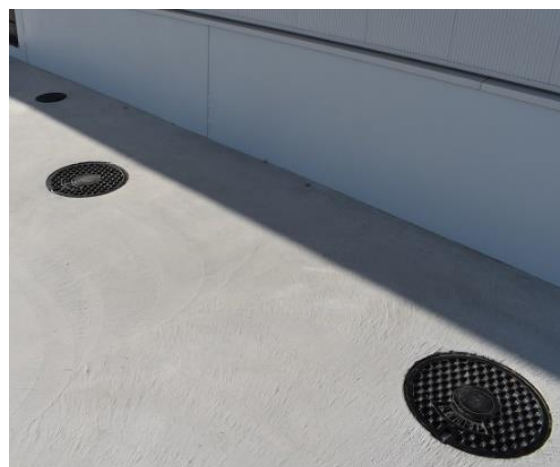
拠点の交通機能の強化を目指す

防災機能については面積に応じた施設を整備

さまざまな機能を補完しつつ、拠点の有効性を高めるために、以下を検討していく。

〔交通結節機能〕を検討していく。具体的には路線バス停留所となる。加えて昨今の自転車利用にも配慮し、サイクルステーションやシェアサイクルなども検討していく。

〔防災機能〕 三芳PAには、PA内の防災備蓄はあるが周辺住民への対応はしておらず、発災時に拠点に滞在していた人や周辺住民に対応した防災備蓄などを検討する。



災害用マンホールトイレ
道の駅いたの（板野市）



防災倉庫
道の駅しんよしとみ（上毛町）



非常電源付きトイレ
道の駅旭志（きょくし）（菊池市）



路線バス停留所
道の駅 和紙の里ひがしちちぶ
（東秩父村）



サイクルステーション
道の駅まえばし赤城（前橋市）



シェアサイクルサービス
道の駅 愛彩ランド（岸和田市）

